

令和7年度 兵庫県立高等特別支援学校 学校評価 自己評価と改善の方法

		【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。 ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。 ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。 ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を回り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。 ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を回り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。						A:3.2 ~ 4.0 B:2.4 ~ 3.2未満 C:1.6 ~ 2.4未満 D:1.6 未満		
重点目標	実践目標	職員		生徒		保護者		自己評価(達成状況)	学校関係者評価	改善の方法
		自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価			
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	① 学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。	2.70	B	3.08	B	3.05	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶について、教員・生徒・保護者とも昨年度より数値が上がった。マナー・ルールを守る態度については、教員と保護者の数値は上がったが、生徒の数値は低下した。生徒は規律ある生活をするため、意欲的に取り組んでいると思われる。</li> <li>・生徒は自分で目標を立て、行動する姿勢があり、主体的に取り組もうとする様子が見られた。</li> <li>・生徒や保護者は進路や将来について不安を感じているが、学年が上がると数値が高くなった。</li> <li>・学校情報については、教員・保護者ともポイントが下がったが、生徒のポイントは上がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【生徒の生活習慣の向上】</li> <li>・挨拶そのものは定着しつつあるが、TPOに応じた適切な挨拶ができていないという点では、まだ課題が残っている。周囲の状況を見ながら行動変容に繋げるところが難しい。</li> <li>・本年度も引き続き「生徒心得(校則)」の見直しを継続して行った。生徒、保護者、教職員それぞれの代表が話し合う機会を設定してきた。話し合いでは、多数決で決めず、納得して合意点を見出し、合意できないものについては次回へ見送り、合意のもとに見直しを図っていくこととしていた。</li> <li>・生徒と保護者・教職員との間で、インターネットやSNSのマナーやルールについての危機管理に対する認識の差が大きい。特に生徒は危機管理ができていないと評価しているが、保護者・教職員はできていないと評価している。</li> <li>・行事に合わせて生活をコントロールし、自発的に体調をととのえることができるようになってきた。</li> <li>【生徒のキャリアプランニング】</li> <li>・生徒は主体的によく考え行動している。教職員は、生徒たちに未来を見据えて行動できるよう、その大切さをあらゆる機会を通して常々説明している。生徒自身の認知する能力や、知識の習得の幅もよく考え対応していると感じる。</li> <li>・学年によっては、自分の将来に関することについての値が低い場面も見られる。</li> <li>【保護者や地域との連携】</li> <li>・「学校通信」は予定どおり12回発行し、写真付きで学校行事の様子等を積極的に伝えた。「PTA通信」を昨年度同様2回発行した。本年度よりPTA会員は任意会員となっている。会員であるかないかに関わらず、全家庭に配付した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【生徒の生活習慣の向上】</li> <li>・挨拶や身だしなみに気を配ること、またルールやマナーを守ることについては、適切な判断ができるように言葉で伝えながら、今後も継続して指導していく必要がある。</li> <li>・インターネットやSNSのマナーやルールについては、危機管理ができていない生徒が見られるので、引き続き指導を実施する。</li> <li>SNS等スマートホンのトラブルに関する問題について、どのように対応すれば良いか検討していく。</li> <li>【生徒のキャリアプランニング】</li> <li>・自分の将来に関することについて、今後の取り組みをどのように展開していくかが課題である。授業や行事を通じて生徒が主体的に学び、目標を設定し、その達成方法について教員と共に考える機会を増やしていく。</li> <li>・担任だけでなく、進路指導部や外部講師、卒業生を招き、就労や卒業後の生活に関する具体的な話を聞くことで、卒業後の進路選択につなげる。</li> <li>【保護者や地域との連携】</li> <li>・保護者、地域、学校が連携する体制を常に維持できるよう、情報発信と相談対応を行う。</li> <li>・卒業後の生活や就労に関する情報をホームページやプリントなどで発信する。また、保護者や生徒からの相談に丁寧に対応する。</li> <li>・ホームページが更新されていないところもあるので定期的に更新を図っていく。</li> </ul>
	② 夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。	2.59	B	2.88	B	2.67	B			
	③ 関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	2.55	B					<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部を中心に各関係機関や企業等との連携を積極的に行った。</li> <li>・新たに就社に至った企業もあり、各生徒の特性を理解した就労先を探すようになってきた。</li> <li>・進路指導部より各学年へ進路情報を周知し提供した。保護者、生徒への相談支援に応じた改善や工夫があり高評価であった。</li> </ul>		

(2)専門職としての教職員の資質向上	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	2.77	B	3.32	A	3.30	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援部と生徒指導部を中心に会議を設定し、教員全員で生徒情報の共有を積極的に行った。教員(寄宿舎指導員含む)が生徒たちを理解し、学校全体で連携した対応ができていた。</li> </ul>	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板、ホワイトボード、モニター等の扱い方の研修が必要ではないか。</li> <li>生徒の視点に立ち、視覚的な認知や理解しやすい色遣いなどのさらなる工夫や配慮も必要であると考える。</li> </ul>	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の重点課題を明確にし、実態と課題に応じた目標設定や手立て、評価ができるようにすることで生徒一人ひとりの適切な教育支援や合理的配慮を行う。</li> </ul>
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.71	B					<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招いた研修を複数回実施した。講師の方に生徒の様子を実際に見てもらい実施した。生徒向けにも、現在の本校の実態に合わせた出前授業も実施した。</li> <li>・外部人材の助言を生かし、3年間を見通した系統的かつ実践的な職業教育の観点に立ち、助言を受けた。さらなる高みをめざすきっかけとなった。</li> <li>・ICT機器や情報セキュリティに関する研修も実施した。本校は文部科学省よりDX推進校に、昨年度に引き続き指定された。</li> </ul>	<p>【教職員の専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の助言を生かしつつ、3年間を見通した系統的な職業教育、各学年に応じた適切な進路指導を展開し、就労現場の事例を交えて助言を受けた。今後の授業展開等の参考になり、実りある研修となっていた。</li> </ul>	<p>【教職員の専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業までにつけたい力を段階的に設定できるよう、共有した生徒情報を基に、3年間を見通した教育計画を作成する。</li> <li>・特別支援教育の視点から目標を明確にし、卒業後の生活に役立つ内容を増やしつつ、生徒一人ひとりにあった段階的な授業計画を立案し、計画する。</li> <li>・教員全員が授業でiPad等のICT機器が活用できるように研修を行うとともに、ICT機器の効果的・積極的な活用ができるように研修していかなければならない。</li> </ul>
(3)危機管理体制の構築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.38	C	3.10	B	2.67	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の危機管理能力の育成では、生徒が自分自身で様々な危機を回避する方法を訓練等で実践し理解を深めた生徒の数値と職員・保護者の数値に差があり、引き続き生徒自身が自分で命を守る行動がとれるようにすることを続けていく必要がある。</li> </ul>	<p>【生徒の危機管理意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察に研修依頼をし、生徒と教職に対してそれぞれ不審者対応訓練を実施した。その際には、さすまたの研修も行った。</li> <li>・アンケートの質問の表記の仕方によっては、生徒の回答が変わってくるのが考えられる。状況がより具体的にイメージできるような質問の仕方や手立てが必要でないかと考える。</li> <li>・学校内だけではなく学校外でも、自分の力で判断し、自分の命を守る行動ができるように引き続き生徒の危機管理能力の育成をめざして取り組んでいく。</li> <li>・防災学習では、訓練のための訓練になっていないかを考えていく。</li> </ul>	<p>【生徒の危機管理意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守る大切さを機会あるごとに伝え、いざという時に自分で判断して命を守る行動がとれるよう、より具体的な訓練を提示し繰り返し実施する。</li> <li>・今年度、1・3学年で実施した、生徒の実態に応じたグループ別学習を、全学年で展開できるように計画する。また、男女の関わりに関する学習を進めるとともに、保護者にも学ぶ機会を設ける。</li> <li>・防災学習では、訓練のための訓練にならないよう、より実践的な訓練となるように企画していく。</li> </ul>
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する教職員の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	2.27	B					<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症に関しては、熱中症特別警戒アラートを常に意識し、暑さ指数に応じて注意事項や活動指針等を定め熱中症対策を行った。</li> <li>・著作権や個人情報の取り扱い等については、徹底することを意識付け、ヒヤリハット事案があればすぐに教職員全員で情報の共有をするなど、日常から危機管理の向上を各自が意識できるよう引き続き研修等を実施していく必要がある。</li> </ul>	<p>【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一敷地内の上野ヶ原特別支援学校との合同避難訓練を引き続き実施し、危機管理体制のより一層の整備と強化を行う。</li> </ul>	<p>【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一敷地内の上野ヶ原特別支援学校との合同避難訓練を引き続き実施し、危機管理体制のより一層の整備と強化を行う。今後も、不審者対応等の研修を継続して実施していく。</li> </ul>

(4)開かれた学校づくりの推進	⑧ 学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。	2.87	B		2.93	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に総務部、進路指導部、保健安全部、支援部等からの通信を発行し、時期に応じた話題や学校からのお知らせを効果的に発信することができた。</li> <li>・ホームページではブログで授業や行事、部活動など日々の様子を写真や文章で紹介し、引き続き情報発信に力を入れている。</li> <li>・広報用ポスターを学校見学や販売活動時に掲示することで、広く学校の広報として活用した。</li> </ul>	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の発信については、ブログで発信している。</li> <li>・ホームページやブログは、興味のある人や関係者しかアクセスしない可能性が高い。そのため、誰の目にも自然と留まるような発信方法も必要である。また、情報の集め方は人によって異なるため、発信に使用する媒体も多様であることが望ましい。</li> <li>・外部団体からのお知らせ等については、教職員がその内容を理解していないことがある。</li> </ul>	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等の情報をホームページで配信し、ブログでは学校の様子を日々更新することで、引き続き本校の理解促進に向けた広報活動を実施する。昨年度12月時点で82件の投稿、今年度は12月時点で54件の投稿であった。かなり少ない状況となってしまった。学年末反省会で周知と次年度へ向けて協力をお願いをする。</li> <li>・学校評議員だけでなく、地域の企業の方を招いての授業見学や授業検討会を実施し、本校と生徒の様子や学習活動を知ってもらう機会を今後も作る。</li> <li>・学校からの案内等お知らせは、その趣旨や意図を周知しておくことが必要である。</li> </ul>
	⑨ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	2.82	B		3.19	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や学年主任、生徒指導部・進路指導部・支援部・寄宿舎等、各家庭と連絡を取り協力しながら、良好な関係づくりができています。</li> <li>・福祉や医療等関係諸機関、地域の企業とも連携する事ができ、必要に応じて問題解決にあたることができた。</li> </ul>	<p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を卒業してから約10年が経つが、今でも文化祭や体育祭に参加させてもらっている。また、「のじぎくスポーツ大会」への参加についても教えてもらったことで、毎年継続して参加するきっかけとなっている。</li> <li>・この学校で将来につながる友だちもできて良かった。</li> <li>・卒業したら就職できると期待して高特に入学した途端に、就労移行とかB型とか言われても、何の事かわからなかった。もっと丁寧に保護者に伝えてほしい。</li> <li>・ホームページでのブログをあまり見ることがない。</li> </ul>	<p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流だけでなく、地域のイベントや交流活動に積極的に参加する。</li> <li>・保護者と直接対話する機会をできるだけ多く設定し、本校の取り組みを共有する。</li> <li>・学校ホームページを改善し、保護者や地域の方々に学校の様子が伝わりやすい情報発信に努める。</li> </ul>

令和7年度 県立高等特別支援学校 学校評価項目

※評価のポイントが2.95以上は黄色、2.54以下は水色で表示しています。

重点目標	実践目標	関連する取組(参考)	教員結果		生徒結果		保護者結果										
			アンケート(教師)	教員集計 カテゴリ別	アンケート(生徒)	生徒集計 カテゴリ別	アンケート(保護者)	保護者集計 カテゴリ別									
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	①学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。 ②夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。 ③関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	・生徒会・委員会活動 ・授業(各教科) ・部活動 ・宿泊行事、校外学習に向けての取組 ・体育大会に向けての取組 ・文化祭に向けての取組 ・校内実習 ・特別実習 ・企業でのあいさつ実習 ・現場実習 ・進路相談会開催 ・進路セミナー開催	あいさつの力を身につけさせることができています	2.95	2.70	日頃からあいさつはできていますか	3.33	3.08	お子様は、日頃からあいさつができていますか。	3.17	3.05						
			自分の思いや困っていることを伝える力が身につけさせることができています	2.33		先生や家族、友だちに自分の思いや困ったことを伝えることができていますか	2.84		お子様は、自分の思いや困ったことを伝えることができていますか。	2.82							
			他人を思いやる心が育っている	2.51		他人を思いやることができていますか	2.82		お子様は、他人を思いやることができていますか。	3.00							
			人間関係形成能力の育成を図ることができている	3.00		友だちと協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.31		お子様は、友だちと協力して行事等に取り組むことができていますか。	3.19							
						自己管理能力の育成を図ることができている	2.39	2.59	金銭や持ち物を自分で管理して使うことはできますか	2.86	2.88	お子様は、金銭や持ち物をを自分で管理して使うことができますか。	2.57	2.67			
						何事にも意欲的に取り組む態度の育成を図ることができている	3.00		学校や普段の生活で自身のスケジュール(予定)をメモ帳等を使用して管理できていますか	2.98		お子様は、自分のスケジュールを管理できていますか。	2.73				
						マナーやルールを遵守する態度が身につけている	2.54		マナーやルールを守ることはできていますか	3.41		お子様は、マナーやルールを守る事ができていますか。	3.09				
						自分で判断して主体的に取り組む力の育成を図ることができている	2.47		授業や行事に意欲的に取り組むことができていますか	3.11		お子様は、何事にも意欲的に取り組むことができていますか。	3.33				
									何事にも目標を持って主体的に取り組む態度の育成を図ることができている	2.55	2.55	学校や普段の生活で言われてからではなく自分から行動することができていますか	2.83	2.55	お子様は、自ら主体的に行動する力が身につけていますか。	2.61	2.55
									キャリアプランニング能力の育成を図ることができている	2.60		自分で目標を立てて計画的に取り組むことができていますか	2.53		お子様は、自分で目標を立てて計画的に取り組むことができていますか。	2.40	
関係機関や企業等との連携を十分に図ることができている	2.96	学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか							2.95	お子様は、学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか。		2.73					
職業実習、現場実習、校内実習の充実した取組ができています	2.36	卒業後の生活に向けて自分の生き方を考えることができますか							2.71	お子様は、将来に向けて自分の生き方を考えることができますか。		2.37					
									進路について、適切な指導、情報提供、相談等ができています	2.33	2.55	卒業後の進路について、進路セミナーや担任の先生からの情報や相談は役に立ちましたか	2.50	2.55	進路についての情報提供や相談は丁寧に行えていますか。	2.20	2.55
									個々の生徒の実態に基づく、適切な支援、合理的配慮の提供ができています	2.77		2.77	授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか		3.32	3.32	
			充実した校内研修を行うことができています	2.71	2.71												
			専門性の向上を図ることができている	2.71	2.71												
			(2)専門職としての教職員の資質向上	④個々の実態把握に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。 ⑤教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実と共に校外研修の受講を行う。	・就労支援研修会 ・非違行為研修 ・カウンセリングマインド研修 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・自立活動研修 ・横の連携(医療・福祉・就労)研修 ・校外研修												
(3)危機管理体制の構築	⑥火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が安全に配慮できる能力の育成を図る。 ⑦事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する、教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	・各種避難訓練 ・合同火災避難訓練 ・寄宿舎避難訓練 ・防犯研修 ・携帯電話マナー指導 ・SNS等による人権侵害についての生徒指導 ・メンタルヘルス研修会 ・勤務時間適正化の取組 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿舎) ・学校保健計画 ・防災安全計画 ・学校いじめ防止基本方針の改訂 ・心の教育相談 ・組織的生徒指導体制 ・授業での安全の徹底 ・三田駅での下校指導	生徒は災害等非常時に安全に配慮して行動する力が身につけている	2.45	2.38	災害等非常時に安全な行動をとることはできますか	3.03	3.10	お子様は、災害等非常時に自分の判断で安全な行動をとる力は身につけていますか。	2.56	2.67						
			生徒は様々な危険に対応するための知識や理解を深めることができています	2.30		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	3.36		お子様は、SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか。	2.73							
			あらゆる危機に対して、教職員の危機管理意識の向上を図ることができている	2.27	熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	2.91	お子様は、熱中症にならないように自分で気をつけることができますか。		2.72								
						学校として、あらゆる危機に対する備えができています	2.27	2.27									
						危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている	2.27										
						(4)開かれた学校づくりの推進	⑧学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。 ⑨学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	・新入生への説明会 ・入学式 ・体育大会 ・文化祭 ・卒業式 ・上野ヶ原特別支援学校との対面式 ・学校見学(全11回) ・丹有地区学校説明会 ・三田市巡回指導 ・高等学校における通級による指導実践研究事業 ・青空市場参加 ・部活動対外的活躍 ・介護等体験 ・学校評議員会 ・進路通信 ・支援部通信 ・学校通信 ・寄附会だより	学校情報を効果的に発信できている	2.87	2.87				学校に関する情報を適切に受け取ることはできていますか	2.93	2.93
									家庭との連携は十分に図れている	3.02							
									行事や様々な取組等において地域との連携を図ることができている	2.62	2.82						お子様のことで担任や学年に気軽に相談することはできていますか